



かしわ

【学校HP】www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamiohta/

「かしわ」は代々繁栄するようにと校章に込められた思いです

最高の景色を ～FIFA ワールドカップ2026から～

副校長 更科和也

今年は梅雨らしい天気が続いています。少し前までは、校舎周りのアジサイが紫やピンクの美しいグラデーションを見せながら咲き誇っていました。雨の日は外で体を動かすことができず、子どもたちも力を持て余していましたが、休み時間に開放した体育館で遊んだり、折り紙コーナーを設けて他学年と教え合いながら楽しんだり、安全に楽しく過ごしていました。

さて、6月から北中米サッカーワールドカップが始まり、連日熱戦が繰り広げられています。私自身サッカーが大好きで、お気に入りの対戦カードや日本戦のある日は大興奮で応援しています。ワールドカップの舞台から学べることは多く、そこには子どもたちの成長を支えるヒントが詰まっています。

まず注目したのが分析する力です。大会では引き分けの試合が多く、強豪と言われる国が、ランキングで下回る国と引き分けています。国同士の力が均衡してきたとともに、各国の分析力の高さを感じます。相手チームの長所・短所を見極め、自分たちの強みを最大限に発揮できる戦術を練る。その成果が結果として表れている気がします。学校では、日々子どもたちと我々教職員は向き合っています。目の前の子どもをよく見て、その子のよさや考えを知る。一人ひとりがもつ個性を理解し、生かしていくことで、よりよい授業や個に応じた対応につながると考えられます。

次に、あきらめない姿勢です。終了間際の同点や、逆転劇の試合がよく見られます。日本の初戦引き分けも、あきらめずにねばり強く戦った産物と言えます。本校の学校教育目標にある「めあてに向かってねばり強く取り組む子」の姿とまさに合致します。学習や生活の中で困難に出会ったときこそ、「もう少しやってみよう」と前向きに取り組むことができる。そんな子どもたちを目指し、支え励まし続けることが必要だと強く感じました。

さらに、チームとしての一体感も重要な要素です。日本代表の舞台裏を伝える番組では、ベンチメンバー全員が立ち上がり仲間を応援することのよさ、元代表選手がスタッフとして帯同し、試合後には選手のスパイクを磨く逸話が語られていました。チームのために自分にできることを考え、力を尽くす献身的な姿勢に感動を覚えました。今大会では、「エース」と呼ばれる選手の得点シーンが目立ちます。しかし、その活躍は決して一人の力ではなく、仲間の支えがあるのだと思います。本校においても、多くの方々が学校教育を支えてくださっています。昨年度の学校だよりでも紹介させていただいた「みんなが なかよく みずから おおくのことを たのしみながら サポート」という姿を、今年度も変わらず見ることができます。こうした温かい支えがあるからこそ、「子ども」というエースたちは安心して自分の力を発揮することができています。一人ひとりが自分の役割を大切に、力を合わせる——それが「チーム南太田」の大きな強みとなっています。

子どもたち一人ひとりが安心して、自分らしく、豊かに成長していく「最高の景色」を目指し、今後ともご理解ご協力、そして力強い応援のほどよろしく願いいたします。